

2020年10月11日 週報巻頭言

神の永遠の中で

「努力は必ず報われる。」「頑張れば何とかなる。」と聞いていませんか。日本に住む人は、知らず知らずのうちに儒教という考えにどっぷりとつかっています。誰でも努力して他人よりお金を稼ごう、頑張って他人より上になろうと思ったことがあるはずです。日本のほとんどの人は、この競争をしているのです。

このような人の心の中にはバベルの塔が建てられていきます。自分の力で、まるで神様のようになろうと、高く高くそびえ立っていきます。その心は傲慢になり、言葉が通じなくなります。イエス様の話さえ聞く耳をもたないのです。

クリスチャンの中にも「努力によって教会を何とかしよう。」「私がいなくなったら、誰がこの教会を支えるのだ。」と、思っていらっしゃる方がいるかもしれません。残念ながら私たちクリスチャンも、大なり小なりこのバベルの塔を建ててしまう傾向にあるのです。

イエスの十字架の救いは、私たちの努力や頑張りによって得たものではありません。神様からの一方的な愛による永遠の恵みなのです。私たちは誰一人、努力や頑張りによって救われる人はいないのです。

それでは、私たちクリスチャンはどのようにしたらいいのでしょうか。そのあふれるばかりの神様の永遠の恵みに対し応答する努力をすることです。これは儒教の努力とは似ているようで異なるものです。恵まれるために努力するのではなく、すでに受け取った恵みに対し応答する努力なのです。

神の永遠の中に入れられるとき、有限なバベルの塔は必ず崩れ去ります。神の永遠の中で私たちの心の中にあるバベルの塔を打ち壊し、その跡地に、神を礼拝するための永遠の神殿を建てようではありませんか。神の永遠の恵みに応答する感謝の奉仕と献金と頑張りを、その祭壇に捧げようではありませんか。心の板に刻まれた律法、つまり聖霊に従い神に応答する行動が、クリスチャンを成長させるのです。それはやがて聖化へとつながっていくのです。

(東京バプテスト神学校本科生 小平公憲)